

守谷吉男氏 逝去 ランドセル贈呈の提唱者

守谷吉男・元山形県議会議員が9月4日逝去され、9日セレモニーホール鶴岡駅前で家族葬が執り行われました。菩提寺は宝林寺（鶴岡市三光町）。



われました。
小学生のランドセル贈呈の提唱者として「民報藤島」に掲載。今回再掲します。

☆☆☆

守谷氏は1925（大正14）年11月27日生・享年94歳。東田川郡区から山形県議会議員を10期連続40年務め、勲三等瑞宝章を受章しました。
農民運動の指導者として多くの農家から慕

隣の子は1万円のランドセルだが、自分分は5千円のランドセルだ。うちは貧乏でお金がないからと、子どもに心がひがみや差別感情を生んではならない。同じランドセルで、仲良く手をつないで、楽しく勉強できるように、差別のない教育をつくるのが政治の

努めだ。そう考えて、昭和40年代に提唱し、藤島町と朝日村が最初に実施したのではなかったかな。

藤島町では加藤康郎氏が町長に当選（昭和45年12月）してすぐに実施（昭和46年）し、羽黒町や余目町に波及し、各地の市町村に広がっていった。

差別の空気がないとこから伸び伸びとした教育が生まれる。子ども心がゆがんでしまわないように条件を整えること、それが政治というものだ。

今は少子化で子どもが少なくなっており、財政的にも大きな負担ではない。

新しい鶴岡市でもぜひやってほしいものだ。（守谷吉男氏・談）
（民報藤島2007年6月24日第599号）

城貞（藤の花）

半生 零落 巳に翁と成る
老体 近来 日日 仲う
八十八年 人 換り 尽くし
不堪 幽夢 大 匆匆

我が半生は、うだつの上からぬまま、もはや年老いて老いの体は、最近日に日に身にまわってきて、心配する。八十八年の間には、人の顔ぶれもかわってきた。たえられない。ぼんやりとした、夢のような日があまりにも、あわただしく過ぎて、しまったことが。

（友人の成澤功さんのことを詠みました）

【絵を描く】 ダルマストーブ

加藤貞雄（山王町／上平形出身）

数年前、ある調査で新庄市の歴史資料博物館を訪れた時のことだ。様々な民具の中に混じって大きくて異様な姿の鉄の塊をみてギクツとした。よく見ると、なんとそれはダルマストーブではないか。とたんに親しみが湧いてきて急いでスケッチしてカメラに収めた。

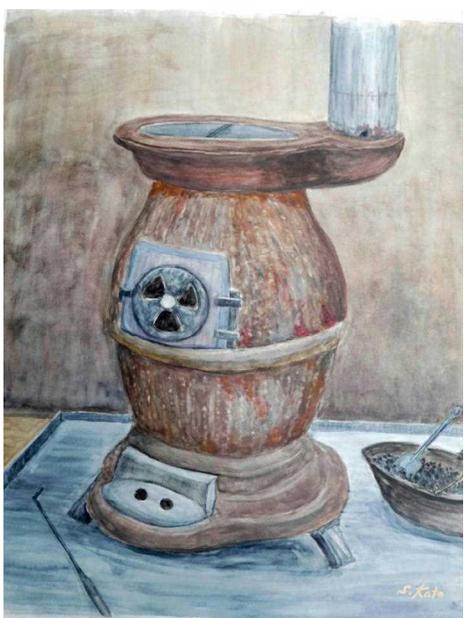
改めて大きな画面に描き直したが、加熱され、錆付いた赤黒い鉄の肌を描くのは苦心した。

私がダルマストーブに世話になったのは、昭和十年代の小学生の頃からだ。まず臉に浮かぶのは教室の正面左手にでんと座っているダルマ姿のストーブ、そこからブリキの長い煙突が伸びて教室の高窓から突き出ている煙出した。ストーブの近くには石炭バケツと十能（じゅうのう）とテレッキが、傍らにはみんなの弁当を温める温飯器があった。

ストーブの上に金網をおいて、菜っ葉などで包んだ「握りめし」をのせて焼くこともあった。

今は暖房技術の進化が著しく、エアコンとかスチームとか全館暖房などが普及しているが、ダルマストーブのなかった時代には学校の子どもたちは教室でどうやって冬を過していたのだろうかと思つた。また冬がやってくる。異常気象が続く昨今だ。今年の冬はどうだろうか？ どうやって乗り切つて行くのか、と思索している私である。

※絵はダルマストーブ



【絵を描く】は次号20回が最終回となります。

中山道テクテク1人旅 28 歴史の峠道

新町 齋藤留治

私の旅日記も前回までには琵琶湖まで辿り着き、日記帳もあと少し。ちよつとだけ後戻りして、諏訪湖畔から塩尻峠に向う途中で目にした、幕末に起きた悲劇の事件に付いて触れておきたい。

NHKの大河ドラマでは放送されていなかったようだが、この事件は西郷隆盛の影の部分とも言われているもの。

諏訪湖畔の宿を出て、下諏訪の街を塩尻峠(標高約1000m)に向って歩いていく時、マップを広げても道がはつきりせず困っていたところに、通りがかったのは諏訪の娘さん(信州大学生で帰郷中とのこと)。

私は多分「これから塩尻まで行くのだけれどもどう行ったらよいか？」と尋ねたと思うのだが、返ってきたのは、「私も用事で途中まで歩いて行くので一緒に歩きます。」と言うありがたい返事。

リュックサックと杖を持って歩いていく私は、彼女と雑談をしながら歩いていく。

街中を歩いている途中で、少し寄り道をして「相楽塚」に寄っていきませんか、と言う。

私は相楽塚なんて知らないし、何だろうと思つて従つて行くと、かなり大きな石碑群が見えてきた。

彼女の説明によると、

相楽塚には幕末に「赤報隊」を率いて新政府軍に見捨てられて処刑になった相楽総三達が眠つていているという。

西郷の命による赤報隊結成の役割は、人殺し、火付け、強姦等人心を揺るがすことばかり。

たまりかねた幕府は、庄内藩等に命じて鎮圧を図るが、暴徒の逃げ場は薩摩藩邸という事もあつて、薩摩藩邸焼



相楽総三らの名誉回復が成され、処刑場所に建てられたのがこの相楽塚で「魁塚」とも言う

だまされては遺憾！
—アジア・太平洋戦争③
溺死した「英霊」36万人

青山崇

溺死の大多数は、戦争末期の絶望時期の艦船の沈没によるものである。

その原因は、アメリカの優秀な潜水艦の襲撃、それに比べて日本の輸送船は多数造ることを最優先したため、性能が悪く、のろい船なので潜水艦の餌食になったからである。

さらに狭い居住区に多数の兵士を押し込めたので、沈没の時全員

き討ち事件となつてしまった。(薩長による庄内討伐の理由や戊辰戦争の口実になった。)

やがて、赤報隊は新政府軍の露払いとして東山道を下り、新政府の許可を得て、「年貢半減」を掲げて民衆の支持を取り付けた。

ところが新政府は、年貢半減どころか、赤報隊が下諏訪に至ったところで、総三らを「勝手に年貢半減、偽官軍である」として、捕縛・処刑した。

最初から使い捨てにする気だつた？

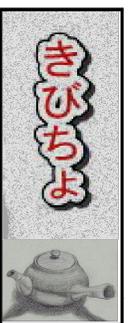
歴史の勉強も終わり、彼女と別れてテクテク塩尻峠の頂上へ。

遠くには御嶽山、ふり返れば陽光の諏訪湖と、南・中央アルプスの峰が、今も目に浮かぶ峠道であつた。(それ以来、諏訪湖大好き人間に)

にダンピール海峡がある。

7000名を載せた8隻の輸送船団が差しかかったとき、連合軍の爆撃隊が襲撃し8隻全艦が撃沈され、約3000名の兵士が海中に沈んだのである。「ダンピールの悲劇」と言われた。

その出港前の兵士に異様なことが起こったことが記録されている。「出かける者の多くがますます(無口)になります。そして機嫌が悪かつた。不安が頂点に達



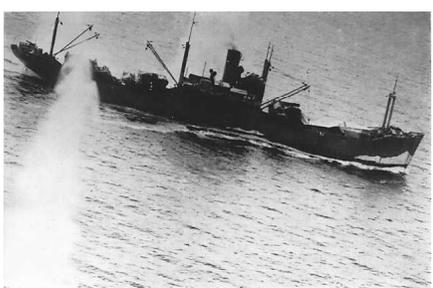
憲法違反に自覚ない

臨時国会が始まつた。首相の所信表明演説は例によつて美辞麗句で耳触りがいいとの話。

今回の目玉がいくつかあるそう。なかでも大事なのが日本の将来というか、運命を決めることになる憲法の改正だ。困つたことに憲法をかえるため、自民党総裁の任期を2期6年から3期9年に變えて、俺がやるんだと執念を燃やしている。

▲報道によると憲法で改正したい処は4ヶ所との事。しかし、4ヶ所がどこだかは、9条以外は誰にも未だ判っていないようだ。というのも、今ここに至つて自民党内からも、時期尚早とか、党内でしつかりと討論してからナンテいう声が出ているとの報道だからだ。▲ということは、準備をさせられている事務

した出港前日の午後には、輸送船に、乗船中の兵士の間から(とつぜん発狂者が続出)するという深刻な事態が発生していたのである。



(ダンピールの悲劇・輸送船「大明丸」)

方にかん口令を敷いて、こんな大事な事を党内で討論もしないで出すのだろうか。ま・今の首相には考えられなくもないだろうが、何でもありの6年間だったからナ。第一この人憲法擁護義務に最高の責任をもつのが首相なんだが、自分が憲法違反をしているとの自覚が全くないときている。

▲憲法9条に自衛隊を書き込むのは、憲法の改正ではなく改悪と思うのは俺だけではないだろう。なにせ、戦争しない国から戦争が出来る国になるんだからサ。世界を敵にした先の戦争を反省して、戦争をしない国に憲法を定めたんだぜ。ここんところをマスコミでも強調して欲しい処。

▲反対が国民の絶対多数。それでも国会に出そうとするとは、あんまりだぜ。国会に出させないようになんて頑張らなくちゃ。

(石川)